

西洋占星術講座 導入編

12 constellations

12 星座占いとは何なのか？

12星座占いをご存知でない方はいらっしゃるでしょう。あなた自身が何座であるかも、きっとご存知ではないでしょうか。そして、その星座によってある程度ご自身の性格を語ることもできるのではないのでしょうか。

12 星座占いとは、星座により、その人の性質や人生傾向、持って生まれた能力、適性などを占断するものですが、その根拠は一体どこから来ているのでしょうか？・・・今日、テレビや雑誌でお馴染みの最もポピュラーとされるこの 12 星座占いについて、真相、真実の姿に迫ってみましょう。

1) 12 星座 序論

そもそもの起源

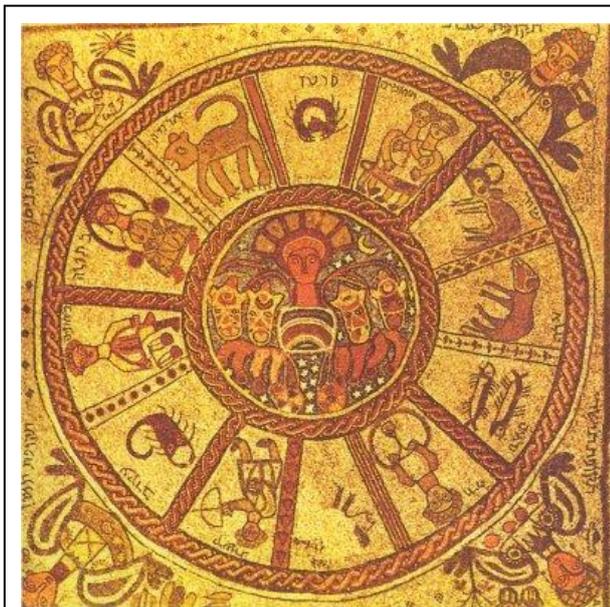
およそ紀元前 9000 年頃には既に発祥していたメソポタミア文明（現在のイラク辺り）において、既に「天体観測」は日常生活に不可欠な習慣であったと推測されています。当時の彼らの衣食住、死活問題を左右する自然現象や天候の変化を「読み解く」ため、彼らは真剣に天体を観測していたのです。初期の農耕民族、シュメール人の羊飼いがその役割を担い、月の軌道による太陰暦が確立されるに至ります。

古～新バビロニアでは、カルデア人が 7 惑星を発見すると共に七曜日制が導入され、円周分割を元に角度や時間の単位となる六十進法が確立されています。新月から次の新月になる周期、^{きくぼうつき}1朔望月が 12 回でほぼ 1 年になることから、1 日の単位にも昼夜それぞれを 12 時間とし 24 時間が採用されていたことがわかっています。やがて、太陽の軌道である黄道を 12 分割する「黄道 12 宮」が確立します。

同時期のエジプト文明においても、文字・文学、地理、建築学、医学の発達と共に天体観測を専門に扱う学問、天文学が盛んになります。学問的な境界線があいまいなまま、**占星術や魔術を執り行う方法も論じられるようになったのがエジプト文明の特徴です。**エジプト人は、昼の太陽と夜に見える北極星を最大の指針として、方角や時間の経過について多くの情報を得ると同時に不滅の象徴として崇め、神についての観念や宗教をも発達させるようになりました。太陽神ラーを絶対神として、その子どもである国王を筆頭に史上初の王政国家を確立され、太陽の軌道を元に太陽暦が編み出されました。

他にもヘブライ人、フェニキア人などが独自の暦を作り、黄道を分割した星図による占星術を発展させています。各地の黄道星座の多くが動物の姿で表されていたため、黄道 12 宮は別名^{じゅうたい}獣帯（Zodiac/ゾディアック）とも呼ばれています。

（古代史の流れについては別紙資料参照のこと）



イスラエル 6 世紀の獣帯

2) ギリシア神話とオリュンポス十二神

ギリシアで確立した西洋占星術

バビロニアの黄道星座は、ギリシアで（オリュンポス=神の住む聖山の名前）十二神と結びつけられ12星座が確定します。神々の力とその影響力を受ける人間の人生、すなわち「上なるものは下なるものごとし」という思想はこれ以前の太古より伝わる考え方ですが、これを明文化し、洗練された文学作品として誕生させたのがギリシア人です。ギリシア文明は、天文学、数学、哲学に代表されるように人がより人間らしく生きようとした、新しい文明の華々しい開花期であり、西洋文化の土台その物でもあります。

ギリシア神話・豊穣の女神デメテルの話

～冬から芽吹き春への寓意～

美の女神アフロディーテは、かねてから同じくオリュンポスで美を誇る女神、知恵の女神アテナ、月と狩りの女神アルテミスに対抗心を燃やしておりましたが、その2人の女神を信望する美しい娘ペルセポネに嫉妬の矢を放ちます。その矢を受けると、目にした人を愛してしまうという愛の矢を持ったエロースをそそのかし、冥府の神ハーデスがペルセポネに恋心を抱く矢を射るよう命じたのでした。

ペルセポネに夢中になったハーデスは、彼の冥府の国、即ち黄泉の国にペルセポネを連れ去ってしまい、彼女の母・デメテルは娘を探して必死になります。そして怒りを抑えきれないデメテルは、娘をうばった責任を大地に課し、注いできた力を遮断してしまいます。作物は枯れ果て、家畜も滅びる一方、不毛の日々が続きます。その間、デメテルは、アテナイのエレウシスという国のケレオス王の家に王子が誕生した件で招かれますが、王子に不死身の身体を与えるべくデメテルが火の中に彼を投げ込むのを、彼の母親に止められて、彼女はここでも怒りの炎を燃やし、さらに地上は涸渇してゆきます。

デメテルに娘を黄泉の国から救うように懇願された主神ゼウスの力を持ってしても、既にペルセポネは、冥界の食べ物を口にしてしまい、もはや地上に連れ戻すことは不可能となってしまいます。このままデメテルの気持ちが晴れないままでは地上の生命すべてが全滅してしまうという危機に際して、ゼウスが苦肉の策で、ペルセポネに対して1年の内4ヶ月を黄泉の国で過ごすこと、残りの時期は母デメテルの元で過ごせるように取り計らうと、怒りを静めたデメテルは、再び大地に実りをもたらすようになりました。ただし、ペルセポネが黄泉の国にいる4ヶ月間は、デメテルは悲しみ、地上を不毛にしてしまうのでした。そしてその時期が「冬」となり、4ヶ月後ペルセポネが地上に戻った時には、デメテルは一年で最も華々しく花々を咲かせ大地を実らせたのでした。その後、ケレオス王の息子が、デメテルを奉る神殿を築いたと伝えられています。そして、今日でも豊穣の女神デメテルを祀る「エレウシスの儀式」が各地で春先に執り行われているのです。欧米の春の感謝祭の起源ともされています。

12 星座とギリシア十二神

12 星座	ギリシア（オリュンポス）十二神	神々の支配惑星	18世紀以降
牡羊座	戦いの神アレース（主神の息子）	火星	火星
	主神ゼウスと正妻の息子で、軍神。オリュンポスでは、少々わがままでだらしない放蕩息子のようにも描かれています。アフロディーテとの情事が最も多く語られている。		
牡牛座	愛と美の女神アフロディーテ（主神の娘）	金星	金星
	アフロディーテは、美しく多くの神々と情事を楽しむ女神でした。しかし、いつも彼女は夫のもとに戻り、夫はそのつど彼女を許していた。ギリシア人にとって、愛は理屈ではないものだったのでしょうか。		
双子座	知恵の神ヘルメス（主神の息子）	水星	水星
	神々の使者、伝達者、俊足にして知恵者。聡明である一方、ずる賢い。生まれて二日目にして豎琴を発明し、アポロンの寵愛を受ける。ローマ神話では英語でマーキュリー、商業、旅行と結び付けられました。		
蟹座	月神アルテミス（主神の娘）	月	月
	女性、特に処女の守護神。心温かいタイプではなく、孤独を好み、概して人間には冷淡で、野山で動物たちを加護していました。狩りの女神でもあり、狩人達から恐れられた。ローマ神話ではダイアナ。		
獅子座	太陽神アポロン（主神の息子）	太陽	太陽
	主神ゼウスの息子で、万能神。ギリシア人が好んだ若く勇敢な青年像が反映され、明るく心温かく、最も人間から愛され、神話の数も多い。ギリシア神話の中のヒーロー的存在。		
乙女座	豊穡の神デメテル（主神の姉）	水星	水星
	四季を司る、農耕、母親の守り神で、彼女にもまた美しい娘がおり、娘思いの母親。神々や人間に対する怒りから、地上の作物を全滅させたことがある。慈悲深さと共にストイックな一面もある。		
天秤座	正義の女神テミス（主神の娘）	金星	金星
	正義の女神テミス。公正であること、掟、裁量することを司る。ゼウスのかたわらで相談役を務め、寵愛されていた。また、予知能力にも優れ、予言をしたり人類に知恵を授けたりもした。		
蠍座	冥界の神ハーデス（主神の兄）	火星	冥王星※
	ゼウスの兄だが、陰気に変化を嫌い、大変嫉妬深く、器が小さいところから、暗い死者の国を司るに適役とされた。日の光を恐れ、常に黒い馬に引かせた黄金の馬車に乗って周囲を視察した。		
射手座	天空の神ゼウス（主神）	木星	木星
	ギリシアの聖山、オリュンポスの王座に雲を天蓋として座り、雷電を王笏としたゼウス。その足音は雷鳴であり、その微笑は繁栄であり、その怒りは破滅だと言われた。気まぐれで好色でもある。		
山羊座	時の神クロノス（主神の父）	土星	土星

	初代天空神である父親・ウラノスを倒し、その地位を奪ったが、自分の息子から同じことをされるのを恐れ、自分の子ども達を喰い殺してしまう。結局末息子のゼウスに打たれ、地位を奪われる。ローマ神話のサターン。		
水瓶座	初代天空神ウラノス（主神の祖父）	土星	天王星※
	ギリシア神話は、原初の神・ガイアが天空神・ウラヌスを生み、彼らが融合し次々に新たな神を生み出す話から始まる。残虐王・ウラノスは息子に打たれ、その息子もまた子に打たれる。親殺しの神話は古今東西に見られる。		
魚座	海の神ポセイドン（主神の兄）	木星	海王星※
	ゼウスの兄で、普段は海に姿をかくしている。温厚で気前が良いが、怒りに触れると豹変する。船乗りや漁師の生活を支えもすれば、人々を溺れさせ死においやることも。ローマ神話のネプチューン。		

ギリシア・ローマ神話に登場する神々は数百にのぼります。12星座との対応も一対一ではなく、上記以外の対応、関連する神々のエピソードは無数に存在していることご了解下さい。

※また、地球から見て土星よりさらに外側の外惑星（天王星、海王星、冥王星）が発見されたのが1781年で、それ以降、主要7惑星に3つの外惑星が占星学で扱われるようになっていきました。あくまでも「12星座占い」であって、惑星の数7か10かを元にした「惑星占い」ではないということです。12分割、12周期、12の数値が重要になります。

ギリシア・ローマ神話に興味がある方は、西洋名画と共に神話が紹介されている『西洋絵画の主題物語Ⅱ神話編/美術出版社』からお手に取って見て下さい。ギリシア神話を本格的に読む前に、絵で見るタイプ、マンガで理解するタイプなど目を通しておくのも大変役に立つという実感があります。

神話その物よりも、解説者が神話を紹介する形を取っているタイプの書籍では下記がお勧めです。

・呉茂一著「ギリシア神話」新潮文庫

・ジェーン・E・ハリソン 舟木裕訳「ギリシアの神々」ちくま文芸文庫

読みやすくアレンジされた書籍では下記がお勧めです。

・曾野綾子・田名部昭著「ギリシアの神々」講談社

・トマス・ブルフィンチ著、大久保博訳「ギリシア・ローマ神話」角川文庫

原書に近い書籍

・ヘシオドス、廣川洋一訳「神統記」岩波書店

・アポロドス著 高津春繁訳「ギリシア神話」岩波書店

用語事典

・バーナード・エヴスリン著 小林稔訳「ギリシア神話物語事典」原書房

12 星座の中の 4 つの要素 / 火、地、風、水

西洋占星術には、紀元前 5 世紀中期に、ギリシアの哲学者エンペドクレス (Empedokles B.C.492~432 頃) が提唱した宇宙論 (Cosmology コスモロジー) が導入されています。それはすなわち、宇宙は 4 つの根本原理で構成されている、「宇宙における四根説」というもの。4 つの根本原理は、リゾマータ (rhizomata) と呼ばれ、これ以上には分離も変化もしない確固とした原質、性質ですが、愛によって混合するか、憎によって分離するかで様々な現象が呼び起こされ、その都度世界が四つの段階に分けられると考えたのです。

当時のギリシアにおいては、美しく整った宇宙秩序の体系として、宇宙論の典型とされたのでした。

今日、四根は広義に「要素」として解釈され、「エレメント」と呼ばれることがあります。西洋占星術の 12 星座は、同じ要素を持った 4 種 3 星で構成されています。

12 星座の中の 3 つの質 / 活動、柔軟、不動

古代ギリシアにおける重要な思想には、もうひとつ人間の気質を大きく 3 つに分類できるという考え方がありました。もともとは人間に限らず何事にも「三つの異相」が存在するという思想で、三角形を含めた「三つでひと組」という単位を古代人は受け入れ好みました。一日には朝昼晩、女性には娘と母と妻、家庭には父と母と子という三つの側面や立場があります。ギリシア神話においても月の女神、運命の女神などが三姉妹で表されるものがあり、キリスト教における三位一体説にも現れています。

今日、三つの異相は広義に「質」として解釈され、「クオリティ」と呼ばれることがあります。西洋占星術の 12 星座は、同質の 3 種 4 星座で構成されています。

12 星座の中の 2 つの対立原理 / 陰陽、男女の区分

「天と地」「光と闇」「生と死」「男と女」等中国の「陰陽道」同様の、万物は対立する二つの原理からなるという宇宙観「二元論」は、ギリシア以前の古代ヘブライ人の思想です。

西洋占星術にはこの「表裏一体」の思想も反映され、12 星座は大きく分けて陰陽もしくは男女の 2 種 6 星座で構成されています。

4 区分、3 区分、2 区分の構成が 12 星座体系の骨子を司っているのです。

3) 黄道十二宮

12 星座以前の十二宮

太陽の軌道である黄道を 12 分割する「黄道 12 宮」あつての「12 星座」であることを抑えましょう。地球を中心に、太陽の見かけ上の軌道を表したものが黄道であり、その黄道 360 度の円周を 12 分割したものが黄道十二宮です。平面図で表すとひとつの円に 12 の区切り線ができた状態になります。

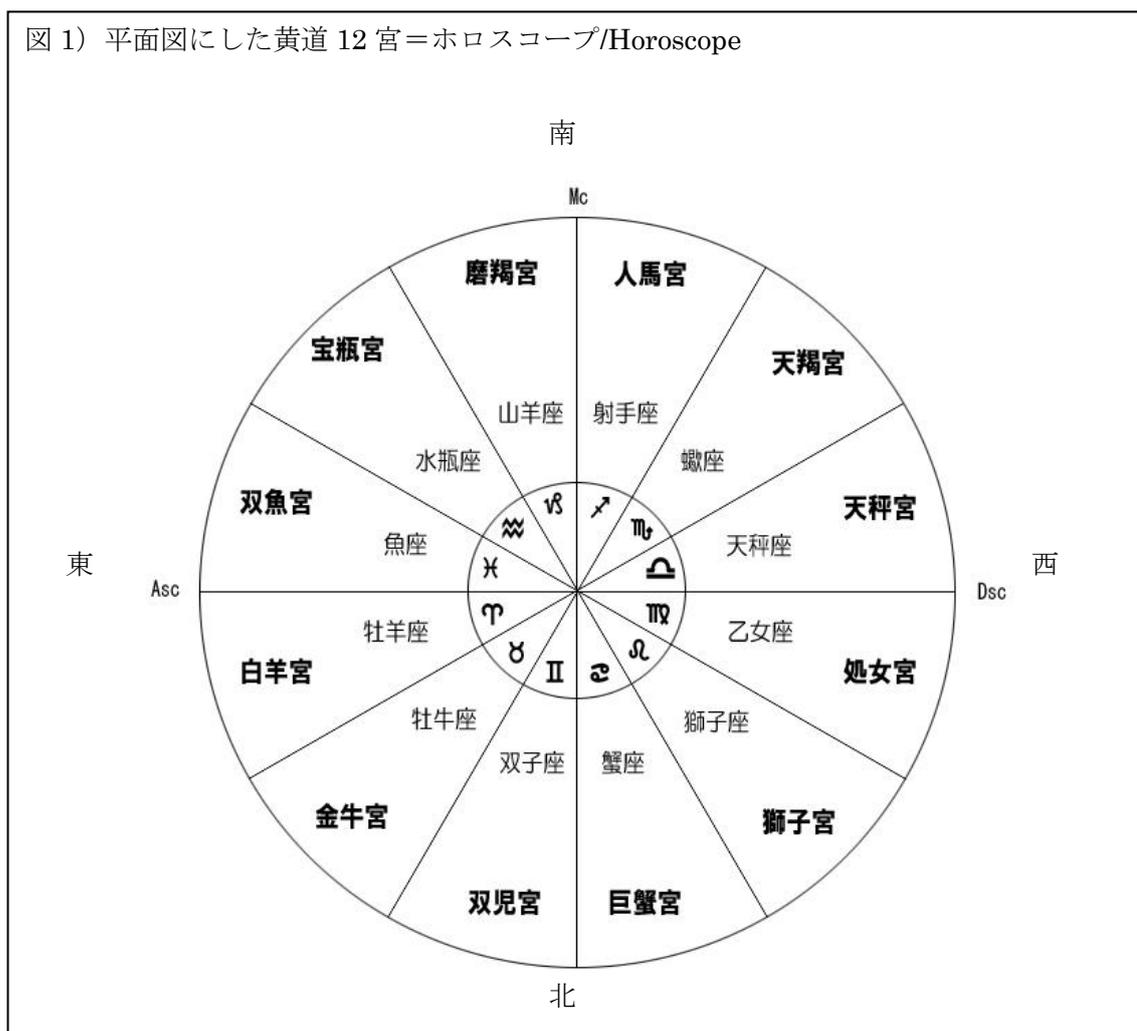
黄道十二宮では、向かって左のポイントを東の地平線と考え、アセンダント (ASC) と呼びます。アセンダントを基点に向かって右のポイントをディセンダント (DSC)、天頂を南としてエムシー (MC)、天底を北としてアイシー (IC) と呼びます。

アセンダントから 30 度間隔で 12 の宮 (ハウス) が刻まれ、黄道 12 宮となります。

各 12 の宮には牡羊座～魚座の 12 星座が配置されます。

現在一般に「私は牡羊座だ」と言うことは、「私が生まれた時、黄道上の太陽は白羊宮にありました。そして夜の星空には牡羊座が見える時期でした」ということを意味しているのです。

図 1) 平面図にした黄道 12 宮 = ホロスコープ/Horoscope



4) 12 宮詳細

12 という数、暦について宮、室、ハウスについて

そもそも何故 12 なのでしょう。それは、古代より現在に至るまで、一貫して継承され続けた 1 年が 12 ヶ月とされている暦と連動しているものと考えられます。史上初の暦、太陰暦は、月の軌道を元に作成されたものです。新月から次の新月までの朔望月が 12 回でおおよそ 365 日となります。メソポタミアに始まり、ギリシア、中国、エジプトでも当初は太陰暦が用いられていたのです。1 ヶ月が 29 日前後となる太陰暦は、どうしても季節と合わなくなり、しばしば大幅な修正が求められるため、エジプト人は太陽の軌道を元に 1 太陽年を計算し、1 年を 12 ヶ月、1 ヶ月を 30 日、余日 5 日とする太陽暦を確立。他にマヤ人も太陽を元に独自の太陽暦を作成したことで知られています。ちなみにカレンダーの語源「カレンダー」は、月相における「朔日」を示すことば（暦の歴史より）。

紀元後、ローマ時代に総督カエサル（ユリウス・シーザー）が抜本的な改革を行い開発したユリウス暦、それがさらに勢力を持ったキリスト教会によって改訂されたキリスト教暦へと移項し、4~9 世紀に定着。以来、イエスの誕生日であるクリスマスと殉教したイエスが復活した日とされる春分の日を二大柱とするキリスト教暦が使用されるようになり、安息日の他に、すべてを休み教会で祈りを捧げる日とする週休二日制も導入されました。

時を経て 16 世紀のローマ教皇グレゴリウス 13 世により、イエスの割礼の日である 1 月 1 日が元日とする「グレゴリウス暦」が定められ、これが現在の暦の元とされています。この大まかな流れ以外にも、各所で異なる周期による異なる暦が編み出されていますが、どれもマイノリティにとどまり、マジョリティに吸収されるに至ったのです。

西洋占星術でも、太陽の軌道と 12 区分が採用されましたが、これは暦に連動するものではありません。あくまでも観測上、太陽がどの宮にあるのか、またいつどの宮に入宮するのかが別個に調べる必要が出てきます。12 星座の筆頭が 1 月 1 日~31 日で 2 月から違う星座になる、というわけではないのです。

西洋占星術は、太陽をその人自身と見なし、その人の生誕、すなわち「日の出」から始まるものとされているのです。日の出の時間が日々変わるように、太陽の動き方も日々変わっています。いつからいつまでが何の星座に当たるのか、12 星座の区切りがいつなのかを調べるために天文暦の使用が不可欠になります。

黄道 12 宮と 12 星座の体系

ギリシア時代に確立した 12 星座は中世を経て 18 世紀頃までに体系化しています。

黄道 12 宮	黄道 12 宮よみがな	星座名	星座記号
白羊宮	はくようきゅう	牡羊座	♈
金牛宮	きんぎゅうきゅう	牡牛座	♉
双児宮	そうじきゅう	双子座	♊
巨蟹宮	きょかいきゅう	蟹座	♋
獅子宮	ししきゅう	獅子座	♌
処女宮	しよじよきゅう	乙女座	♍
天秤宮	てんびんきゅう	天秤座	♎
天羯宮	てんかつきゅう	蠍座	♏
人馬宮	じんばきゅう	射手座	♐
磨羯宮	まかつきゅう	山羊座	♑
宝瓶宮	ほうへいきゅう	水瓶座	♒
双魚宮	そうぎょきゅう	魚座	♓

表 1) 黄道 12 宮における 12 星座のパターン、すなわち 12 種類の人のタイプ

宮	星座名	二区分	三区分	四区分
第 1 室	牡羊座	陽	活動	火
第 2 室	牡牛座	陰	不動	地
第 3 室	双子座	陽	柔軟	風
第 4 室	蟹座	陰	活動	水
第 5 室	獅子座	陽	不動	火
第 6 室	乙女座	陰	柔軟	地
第 7 室	天秤座	陽	活動	風
第 8 室	蠍座	陰	不動	水
第 9 室	射手座	陽	柔軟	火
第 10 室	山羊座	陰	活動	地
第 11 室	水瓶座	陽	不動	風
第 12 室	魚座	陰	柔軟	水

5) 要素、エレメント、4区分の詳細

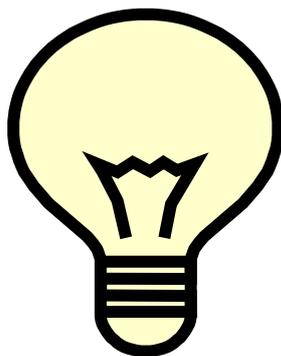
火 赤々と燃ゆる炎のごとく、熱く勢いがあり、華のある存在。組織の中心的な役割を担い、トップを目指し、自分の存在を世に知らしめようとします。情熱的でドラマティック、派手好きです。

地 大地のごとく、地中のタネをじっくり育み開花させる縁の下の力持ち的役割を担います。地に足をつけ、まず、金銭、モノ、生活、衣食住を優先させます。確かな信頼できるものが好みでしょう。

風 天空を軽やかに舞う風のごとく、人から人へ、国から国へと情報や文化を伝える役割を担います。コミュニケーション、時流を司り、流行に敏感。交友関係が広いのも特徴です。

水 この世を潤す水のごとく、人の心のオアシスとなる存在。感受性が豊かで、慈愛の精神を持ち合わせています。スピリチュアルな癒やし手として、また、感性がものをいう芸術方面で開花する傾向。

タロットの小アルカナをふり返ってみましょう！



6) 質、クオリティ、3 区分の詳細

活動 活発で精力的で、独立独歩が主流。それができずとも、自然に周囲のサポートを集めて有力人物としての地位を築きます。内面的な情動の波は激しく、近寄りがたさとして出るでしょう。顔には出さなくても激情が波打っています。

不動 不屈の精神性で、意志を最後まで貫ける人。時間にも周囲の変化にもとらわれず、ひとつのことをトコトン極める耐久性は、執念とも言えるもの。我が道を行き放題、いわゆる K.Y.の典型。当人は気にしないでしょう。

柔軟 相対するもの次第で、自分の形を変えることができる人。この人なりにストレートにものを言っても、どこかワンクッションを感じさせる人です。広く浅く教養を身につける傾向があり、多面性故に信頼されにくいところも。

エレメントもクオリティもどちらも人となりを表す重要ポイントですが、根本的な違いをここで抑えましょう。

森羅万象を火地風水の四つのパートに分け、各 12 星座がどの部分を受け持つか、という考え方を表すのが「四要素 (エレメント)」です。要素は、あなたがこの世で果たす役割、生き方の暗示であり、例えば、バンドの中で、ボーカル、ギター、サックスと役割分担がある中で、あなたがどのパートで活躍し、どういうタイプの仲間が必要かを判断するのもの。同じ要素を持つ者同士は、相性がよいとされ、その人が持つ要素は他者との関わりに大いに影響するのです。

そして、同じボーカルでも、派手にシャウトするタイプ、しっとりアカペラで聴かせるタイプと、歌い方の「質感」が異なってきます。この質感を示すものが「三氣質 (クオリティ)」です。質感が同じなら似た者同士といえますが、もともとの生き方の相違を乗り越えることは難しく、それだけでは相性を語ることはできません。どちらかと言えば氣質、性質は個人を単独で物語るためのものだと言えます。

12 星座とは何なのか、いかがでしたか？

牡羊座に始まり、魚座に終わる一連の 12 星座、その概要をご理解いただけましたでしょうか？まだまだこれは序の口です。ギリシヤ人から語り継がれている神話の数々、ホロスコープの作成と解釈など専門的に学びつつ、是非ともこの奥深い文化を日常的に活用して行って下さい。

* ギリシヤ伝来の黄道 12 宮と人体
18 世紀の木版画



著作権法により、ご本人様個人の使用に限らせていただきます。
ステラ・マリス・ナディア・オフィスの許可なく、無断で複製すること、
また、文書をネットワーク上に掲載することなどは禁じられておりますのでご注意ください。

(株)ステラ・マリス・ナディア・オフィス
月刊ステラ・マガジン
〒345-0033 埼玉県北葛飾郡杉戸町佐左エ門 1672
制作・編集 PHON&FAX0480-38-3277